

## 会 議 録

### 1 会議名

令和3年度 第5回高田区地域協議会分科会（第1分科会）

### 2 議題

#### （1）協議（公開・非公開の別）

①高田区の活性化について（公開）

### 3 開催日時

令和4年1月11日（月）午後7時40分から午後8時25分まで

### 4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

### 5 傍聴人の数

0人

### 6 非公開の理由

—

### 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：浦壁澄子、小川善司、高野恒男（副会長）、富田晃、本城文夫（会長）

松倉康雄、宮崎陽、村田秀夫（欠席：小嶋清介）

・事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、五十嵐主任

### 8 発言の内容（主な発言の要旨）

—次第3 協議（1）高田区の活性化について—

#### 【富田座長】

それでは本日で、第5回目の第1分科会を開会する。

若者の地域参画ということで、高田区に住んでいる若者の取組を知るために、先程、打田さんの取組について話を聞いた。

まず、その話を聞いての感想をお願いします。

#### 【浦壁委員】

話を聞いて素晴らしいと思った。私たち地元の人ではなく、北海道から来てやられ

ていることに本当に頭が下がる思いである。高田の若い方が、たくさんこの人のもとでもっと意見交換するなり、会を広げてもらいたい。そのためにも私たちが何か高田の若い人たち、打田さんのこのような素晴らしい活動に対して、一緒にやっていける手助けができれば良いと思っている。

#### 【小川委員】

今日、打田さんに来てもらって、こういう活動をしている人がいるということをごさんの方から認識を深めてもらえてよかったと思う。

#### 【本城会長】

私もずっと雁木のまちづくりという視点で、地域では頑張ってきた。従来のパターンは、どこの地域もそうだが、一過性で終わってしまう。だから今回のこの話は、若い世代が雁木の町家の空き家をどう活用していくかというテーマで目標を持って取り組んでいることがわかった。問題は、その地域の住民との共生というか、そこがどのように作られていくのかである。

松倉委員からも話があったが、一緒に協力していこうという人たちが地域の中にどれだけいるのか、そこが大きな壁だと思う。話を聞いていると割合に県外の方が、興味を持たれて来ている。ただそこから先は、本当にこれから持続できるのかというところが大きな課題だと思う。確かにカフェをやったり、民宿をやったり、そのアイデアは素晴らしいと思うが、これを支えていく雁木の町家の市民が、どんな協力体制でいくのか。そこの関係はどうやって作っていくのか。私の町内でも雁木茶屋ということもやったことがある。一時的に何年か継続したが、結局、来る人たちの顔ぶれが固定してしまい、なかなか広がらない。こういうことを経験してきて、何回か失敗を繰り返している。地域のイベントをやりながら、雁木の町家を元気付けるという意味では、さっき小学校の子どもも一緒に参加させて、いろいろなことを学ばせているというお話があった。そういう地域と学校との連携で、今、雁木の朝市も、小学校の子どもたちがいろんなものを持って出店している。そういう関係を構築していくことが一番大事な課題かと思っている。

私の住んでる南本町3丁目も空き家になっている家がある。結局、町家は暗い、寒い、それから一番恐ろしいのは火災。連担火災が続いたこと。しかも火事になると大体5～6軒燃えてしまう。そういうものに対する地元の人たち、住んでいる人たちの

恐怖感というか、それがあることにより若者がなかなか町家に定着できないというところがある。そういう問題もこれから大きな課題になる。

あともう一つ大事なことは、市の企画政策課の事業で取り組んでおられていること。例えばパンフレットを作ったり、いろいろなものを発信している。市はもうちょっと雁木に対し行政も関わるというかそのところはどうなのか。今度の市長はそういう点はある程度政策的に実現できるだろうと思うが。例えば南本町が今回、重点地域として雁木の指定をしていただいている。かなり細かい協定みたいなものを結んで、動き出そうとしている。そのように縛りをかけられて「雁木の色はこの色ですよ」とか、いろいろ細かいところも入っている。それにこの間、いろいろな会議をやっていたりするが、どこまで行政がそれを継続的にやっていけるのかというものも含めて考えていかないと、ただ地元だけでやれと言ってもなかなか今の力ではできない。

ただいまの打田さんのような方々が、その地域の中にどう溶け込んで、一緒に連帯してできるのかという辺りを少し深く掘りさげることが大事だと思っている。

#### 【高野副会長】

地域の良さはそこに住んでいる人よりも、よそから見た人、来た人からの評価が高いと思う。ここに住んでいる人は、それは昔からあるとか当たり前だとか言う人が多いと思っている。それと町家を使った活動は、その地元の年配の方がそういうことをされると、その年配の方の周りの人だけが来て、若い人がこない。それで今この若い人がこういうことを始めると、若い人は若い人をたくさん呼ぶことになる。そういうことで若い人はいいのかなと思っている。

そういう意味では、地元の人もその人たちに協力して盛り上げていくという姿勢が必要かなと思っている。行政の方に考えてもらいたいのは、定住と移住があり、移住してきた人が町家を使ったときに、改造費というか、家賃というか、そういうものに支援がうまくセットできれば良いと感じた。

#### 【松倉委員】

よそから来た人と言うと失礼だが、一生懸命やっておられることに頭が下がる思いである。それに私も負けまいようにと頑張って頑張っているが、いかんせん 1 人では何もできない。そして去年、一昨年と都市整備課から街なか定住という話で、お尻

を叩かれている。何度も若い者を含めてワークショップをやっているが、若い人の腰が重いのか、うちのまちの若い人が消極的なのかちょっとわからないが、なかなか話が前に行かない。さらに一步、雁木の指定とかいろいろなものがあって、そこでまた若い人に「とにかく何とかせい」「自分たちがこれからこのまちで住んでいくのだから、何とか考えよう」ということで、若い人のお尻を叩いている。「もう我々をあてにするな」「若い者のまちなんだよ」「このまちをどうやっていくのか、真面目に考えてくれ」と言っている。でも若い人だけでもできないので、何とか我々年寄りも頑張ろうかなと思っている。

#### 【宮崎委員】

今回初めて参加した。打田さんは私の隣みたいなものです。川を隔てて、橋を隔てて隣ということですずっと見ていた。私はあえて1度も顔を出していない。どういう動きをするか見ていた。私は80年生きてきて、このような形は何度も繰り返し見ている。しばらく傍観するというのが私の考えである。だけど、私自身とすれば、この80年の経験の中で、本町の区画整理事業で雁木が全部壊されてしまったことを踏まえて、行政との関わり、それから地域の経済力の問題、ここはきちんと位置付けておかないと打田さんたちが頑張っても育たない。そういう点では、行政との関わりはどうしても避けて通れないと思っている。余生はあといくらもないが、関わっていくつもりでいる。どうやって具体的に行政とやっていくのかという問題になるので、新しい市長になって、雁木と町家の問題で会いに行こうかなと思っている。そういう状況で、今ちょっとあえて傍観している。

#### 【村田委員】

まとめていないので感想を言わせてもらおう。

素晴らしい建築技術で、人々の居住空間が新しく生まれ変わって、そこで人が出会うことの喜びはとても素敵である。そういう意味で素晴らしい取組だなと思う。この写真を見るとミニコンサートをしている写真もある。瞽女文化と一緒に共有しましょうという空間としても、とても素敵な場所である。その素敵な空間で、新しく生まれ変わった居住空間で、何を人と人が楽しむのか。そのひとつがミニコンサートであり、高田の芸能や文化、歴史であり、あるいは家庭菜園で自分の作った野菜を持ち寄るということで、人と人が喋りたいこともある。あるいは「野菜をどんどん持つ

て行ってね」とか、もらうだけでも嬉しい。

それで、人と人の共有空間を求めると、同時にプライベートの時間、距離感というのも要求される。あまり近すぎて、一緒にいるだけというのはちょっと重いと思う関係性もあるだろう。高田の活性化と言った時も、個人のプライベートな時間や空間も保証されながら、でも時には集まって素敵に出会いたい。素敵に出会うには、このリノベーションした新しい建築技術を生かした、町家の空間はとても素敵な状態だろうと思う。

前にも感想を言ったが、旧師団長官舎で古い建物が新しくなって、そこで手づくりの素敵な料理をお互い食べて楽しむということに成功していると思う。昨夜のテレビの録画を今日見て、まちの感性、文学芸術に出会う時間とそれが共有できることになると素敵であると思った。だから活性化といったときに、空間そして適度な距離感と共有性、そのバランスを考えるとここはとても良いと思う。

私も富山から来た人間である。高田の魅力にはまっている。それで街中の祭りでもいっきりに楽しんだり、海に潜ってみたり、山で沢に行ってみたり、青田川の源流も歩いてみている。人と人が共有し合っただけのんびりしたり、自分と自然の楽しむ空間として、非常に高田は面白いと思っている。高田の活性化というのも、そういう視点で、両面を絡ませながらの取組として、人々の幸せとして、構築、プランニングしていくことが重要かと思っている。

#### 【富田座長】

皆さんからは、前向きな感想を述べていただき感謝する。先ほど打田さんが言ったが、継続が大事であるということ。高田に来て5年、これからの5年でさらに飛躍すると思う。

PRについて、平成30年に上越市が市民アンケートを行っている。5千人のうち回答率が40%で、2,400人ぐらいの回答があったと思う。その市民のアンケートを見たら上越市はPRが全然駄目だというのが載っていた。そういう意味でPRは大事だなと思う。これからSNSも当たり前になってくる。ただそれは、見に行かないといけない。テレビは見ていたら入るが、SNSは自分で求めに行かないととれない。だからインターネットで町家に住みたいけどどうかなというところに入ってくる。そういうPRをどうするのか。

今日、打田さんは、地域協議会の皆さんにいろいろお話できて喜んでいると思う。皆さんはいち営業マンになってもらう。手前みそだが、私のスキー仲間が鎌倉と埼玉から来て1泊する。そのように皆さんが営業マンとなって活性化していくということも一つのやり方なのかなと思う。

打田さんの取組に地域協議会として何を支援すればいいか。最初に浦壁委員が言われたように、誰が支援する。高野委員も言われたように何か困ったことはありませんかとか、町家を改築するときに数百万円かかるので、そのコストによって町家に合わなかったことの話もあった。

清里区では空き家対策のために遺言状、自分が亡くなったら、これはこうしますとか、それがあるとものすごく処理しやすい。そういうことを清里区で行っている。高田区は4万人で世帯も多い。それは清里区だからできる。世帯が少ないから。ここはちょっと多いのでできない。

この空き家について、打田さんは空き家の町家で崩れかけてるところはリフォームをしてもお金がかかるので駄目だと言っていた。そのような空き家云々について、打田さんを地域協議会として支援してはどうか。どのようにできるかわからないが、これを自主的審議事項にして審議し、市に提案するとか考えられる。

地域協議会委員の第3期で入っていたAさんという人がいる。私は、まだお会いしていない。本町5丁目のボルダリングクラブにAさんが入っているのではないかと思う。あと、村田委員が前に言われていたように、Aさんからスポーツという観点でどうかなと思う。それから介護・NPO法人のBさん。介護、スポーツ、町家この3人ぐらいに聞いたらどうかと思う。

今日のこの町家云々も相当パワーがかかる。これをいろいろ調べるのであれば、皆さんの方でこういう若い人がまだいる、こういう人にも聞いてみたい、どんなところに苦労しているのか、地域協議会として支援できるものはないか、というような観点から聞いてもいいと思う。

#### 【高野副会長】

今日は、その打田さんから来てもらって、その中でいろいろ問題点があるみたいである。ここに来た方に対して地域協議会が何か協力できる部分というか、市に提言するというか、何か具体的にしてあげる方法があるのではないかと思う。

空き家になったときに、その空き家をずっと空き家のままにするのか、それとも売  
るのか、なかなか近所の方が聞きづらい部分がある。そののところに行政も入っても  
らって、その空き家は売る予定であるとか、ずっと空き家ですかとか、何かそうい  
う確認できることがあれば良いと思う。それがないと、ずっと空き家のままで、最後  
にはぼろぼろになってどうしようもないことになる。もし、空き家を早く処分したい  
とか、貸してもいいとかはっきり意思表示があったら、打田さんからも何かできるこ  
とがあるのではないかと思った。

【松倉委員】

この間、都市整備課と私の連名の名前で、うちの町内の空き家の持ち主に、これで  
2度目となるアンケートを10件くらいとった。それで6件くらい回収して返事も  
もらっている。この先どうするかであるが。

【高野副会長】

それはお宅の町内だけか。

【松倉委員】

そうである。

【高野副会長】

それは市の方から言われたのか。

【松倉委員】

私の方から言った。私だけだと説得力がないから、ちょっと市に名前を貸してもら  
いたい、協力してほしいということで行った。市からもいろいろな項目を作っていた  
だいて、私もこれについて聞いてもらいたいということを出すことができた。

【本城会長】

その取組があるならば、ぜひ見せてもらいたい。

【松倉委員】

承知した。

【高野副会長】

そういうことは今初めて聞いた。

【本城会長】

行政は、個人の財産とか、その私権に関わることは介入しない。

【松倉委員】

そうである。

【本城会長】

だから壊れても代執行をやらない限りは、行政は入っていかない。だから個人物件までは介入しないのが行政。

【松倉委員】

町内会が意見を聞いたただけのアンケートで、その先に何かしようということではない。どう考えていますかという内容になっている。

【高野副会長】

だけど情報があれば、次の行動ができるのではないか。

【本城会長】

ところが、不動産屋に任せると物件の個人の連絡先はプライバシーの問題で教えてくれない。そういうのがあって雪下ろしの問題もそうだが、聞いても公開しない。もちろん行政もしない。だから、連絡の取りようがない。そういうことが雁木の空き家の実態としてある。今の話で、町内が全部の空き家の連絡方法を知っているのか。

【松倉委員】

把握している。

【本城会長】

だから雪処理の問題、お金の負担も、空き家になっていても建物がある限りはお金を取れと。空き地ならしょうがないが、建物があったら金をもらえと地域の人たちは言うわけである。雪下ろしの問題あるいは道路除雪、自分の家の前の除雪をどうするかという問題も含めてどうか。

【松倉委員】

うちの町内は、空き家にも町内費をもらっている。冬、雪を流雪溝に流すので、空き家からもお金を取っている。空き地も同じ。ちょっとせこいと言われるかもしれないが、やはり冬の問題があってみんな協力しているので。

【高野副会長】

町家が連担しているからできるというところもある。

【村田委員】

質問である。松倉委員のところの空き家の維持管理も非常に大きな問題だが、新しくした場合、あるいは空き家を再利用していく方法で、その空間でどんなことに利用するのか。あるいはどんなことを人々がそこで楽しむというイメージを持っているのか。維持することは非常に重要なことだが、そこで何を楽しむのか。どういう空間にしていくのか。こういうことに対して、このように使いたいとか、町内の声はどうなのか。

**【松倉委員】**

うちの町内の場合はそこまで考えていない。

**【高野副会長】**

それは改築、リフォームするときに、その人がこんな使い方するからこうしてくれとか、最初からそこに限定してしまうと、どうだこうだというのは難しい。

**【村田委員】**

みっともない形にしておきたくないと思うほどのひどい状態になると。

**【高野副会長】**

それならばまず、そこに住んでもらうことかと思う。住んでもらえば、それは必要ないわけである。

**【村田委員】**

そこへ移住して、学生さんでも住んでいただくこと自体、大きな喜びである。

**【小川副座長】**

いくら空き家になっていても、その空き家の所有権がそこにある。例え人がいなくても、建物があることによって、町内の負担というのは除雪とかいろいろな意味でかかってくる。町内費だけは徴収する。うちの町内もそうである。

**【高野副会長】**

いろいろな方をここへ呼んで来て発表されるのであれば、その人たちに何か協力できることがないか、そういうところも、ここで話し合ってみたらいいと思う。ただ聞いて終わりというのは。

**【富田座長】**

そのようにはしない。我々ができる範囲では、自主的審議事項にして市に提案すること。

【高野副会長】

今回は、まだ 1 回目である。いろいろ聞いていく中でそういうものも見出していくことが必要だと思う。

【小川副座長】

真っ先にできる、協力できることは、明日にでも例えば「兎に角」に行ってコーヒーを飲むことである。

【高野副会長】

だからそういう細かいところの協力が積み重なることになる。

【松倉委員】

他のところでも協力できることはありませんかとか。また他のグループを呼んで、こういう機会を設けてもらって。

【小川副座長】

やはり行くことによって、いろいろな話ができる。そこでまた人と人との繋がりというか、関係ができてくる。そうするとそこにまた参加できる。

【松倉委員】

我々も刺激をもらわないと。

【富田座長】

一応今年の7月を見据えて、空き家とか、町家をどうするのかというところをやって、調べて、最後には自主的審議事項で審議するところまで持っていく。

【本城会長】

さっきの話を聞いている限りは、何かその利益を求めてやっているというところも見え隠れしている。例えば、コーヒーショップを開くとかは、営業としてやることになる。民宿も安いけれど収入を得ることになる。ボランティアで無料でやっているわけではない。そうなるのとたまたま空き家を利用して、そういう店舗を広げ、何か自分のところに還元するというものを求めて、建築士さんが動いたりしている。そのように外から見ると、雁木の町家は魅力あるように思って、そこで何かをやろうとしている。だから、結局は、その人たちの収入を得るところに行くのではないか。

【富田座長】

おっしゃる通りである。「仲六 青苧のいえ」は、年間180日しか営業できない。



らった。打田さんの活動は立派だが、私たち分科会として、それを土台にしてどのように若い人たちをこの打田さんの事業とか、また違った部門でもいいが、どのように活性化に結びつけていくかを考えないといけない。若い人たちをどう地域参加させるかということはある程度具体的に、どのような方法で若い人たちが地域参加できるかというのが分科会のテーマだと思う。それがはっきりしてるのに話がどんどん捉えどころがないところまでいっている。こんな貴重な時間を使って、わざわざ来ていただいて話を聞いたのであれば、それを我々が生かすように、若い人たちが地域参加できるようなことを考えるのがこの分科会の主題だと思う。是非その方向で話を進めてほしい。

#### 【富田座長】

その方向で、この前浦壁委員に約束したように、7月までに私と小川副座長が責任を持って完成させる。それだけは約束する。

1つは、若い人から介護、スポーツなど異業種の人に来てもらって、何か支援することはないかということをする方法。もう1つは、打田さんが「町家はボロボロになるのは早くて、ボロボロになってしまえばもう駄目。まだ健全な状態で直したい」と言われた。リノベーションを通じて、高田のまちの健全性を向上する。それから高田のまちに人の集う場、特に若い人の機会を増やしたい。特に若い世代との接点、こういうことを言ってる。これがまさに若者の地域参画ではないか。そういう2つの方向性が出ている。

それをどちらにするかというのは、今日ここで決めても良い。また小川副座長と話をして、7月までに完成するという意味で、どういうことをしたら良いかについて私と小川副座長ですごく悩んでる。本当に私は、3分の1ぐらいこれにパワーを使っている。いろいろ情報を集めている。まだBさんには会っていないが、本当は会ってそれでやろうと思っている。清里区でやっている安心ノート。その取組を聞いて、そっちに行くというルートもある。

ただ7月までに完成させようということでは話したが、今日の町家云々のことをやった方が7月末にはできる。しかし、他のBさんとかの話については、来月、再来月、そして4月、5月、6月、7月しかない中で、ちょっとそこはどういうようになるか、私としては自信がない。

でも、今の浦壁委員に言われたようなことで進めたい。ただ今日の町家の部分は、大体目途ができています。あとは進め方ではないか。自主審議事項にして皆さんと協議してもらおう。ある程度皆さんはイメージされていると思う。また別な人から話を聞いてもいいが、今日の話で打田さんが何に困っているかということは明確になった。そういうことをやっていくということであれば7月までに十分時間があると思う。

**【小川副座長】**

この分科会が始まった時、我々が採点を担っている地域活動支援事業にそういう若い人たちの活動を認識して、そこに反映していくことができるのではないかと最初考えた。しかし来年度はなくなるかもしれない。そうすると委員20人がコーヒーを一杯ずつ、そういうことでも支援になるし、あるいは何かそこでまとまっていく案が出るかもしれない。

**【富田座長】**

情報では、松倉委員の町内ではいろいろやっている。それでその一つとして清里区の安心ノートみたいなものをどのぐらい広げるか。それで、町内会長に説明してどこまでやれるかわからないが、個人情報もある。何かこう興味があれば見えてくるのではないか。

**【小川副座長】**

分科会のある程度意見がまとまって、市長に提言できれば、今度の市長は重点的な予算配分について、またそこに反映されるかもしれない。

**【富田座長】**

7月までにある程度まとめたいと思っている。あとはAさんとかBさん、たくさん話を聞いて、スポーツでどうするのか、介護でどうするのか、それはちょっとイメージできてない。話を聞いていないからわからない。本当は話を聞いて、こういうことがあるということで提案できる。ただ、打田さんの方が、7月までにはいいのではないかという気がする。

**【村田委員】**

高田の活性化といったときに、現状をどう捉えるかということはどうしても必要だと思う。高田の活性化についての全体像。今ここまで到達してきて、こういう分野でこういう勢いがあるって、その方向で良いのかとか。あるいは私らがどのように支援

していくか。あるいは行政がどう後押ししていくのかといったときに、先ほど意見が出たように、結局住んでいる方が、営業が余りにも強くなると、そんな方向へ後押ししてもいいのかという指摘も出てくる可能性もある。

介護、お年寄りが活性化する時間や空間は、どうしても民間の営業ということも絡みながら今進んでいる。お金を出さないとお年寄りが時間を過ごせないような形になっている。例えば、オーレンプラザ、図書館、いろいろな施設を使って公的な施設で、お金を出さなくても、そこに人々が来て何か元気に楽しく有意義に過ごすようなまちになることが本来の姿だと思う。

お金を出さなければ、お年寄りあるいは子どもたちがそこで遊べないのではなくて、公園があり、図書館があり、お金を出さなくても本が読める。お年寄りもそこへ行けばお金を出さなくても楽しく過ごせるとか、民間の活力も非常に重要だとは思いますが、そういったところを考えたときに、今の高田の活性化、上越市の現状はどうか、どこら辺にきているのか。民間にお金を出さなければ過ごせないようなまちでは、私は嫌である。

**【高野副会長】**

今のオーレンプラザや図書館について、誰がそれをやるのか。

**【村田委員】**

その問題もある。

**【高野副会長】**

それはそれでいいことだと思うが、それを誰がやるのか。それを行政がやるのか、民間がやるのか。いろいろあるが、その辺を具体的にするような話にならないと。

**【村田委員】**

オーレンプラザのピアノコンサートに私は参加した。毎月第4土曜日に参加した。あの取組は、本当に人と人をつなぐ、しかも素晴らしいメインホールにお金も出さないうで、私みたいな素人が100人ぐらいの聴衆がいる中で演奏させてもらった。私はあまりお金を払わないで、時間を過ごせないようなまちは嫌である。だから活性化といったときに、このまちが今どこまで来ていてどういう特徴を持っていてという認識が非常に重要だと思っている。

**【高野副会長】**

ここでそんな大きいことで動いて無理をして、どうだと言っても、今はここも細かく分科会でやっているわけである。

**【本城会長】**

若者の参加というところに焦点がある。高田に元気をつけさせるために若者の参加をどう作るかというところからスタートした話である。焦点をそこに絞っている。施設の活用は別の問題だと思う。そこまで議論すると我々のテーマではない。だから、空き家の問題も1つのテーマ、その中に若者の参加についてどうするかということが分科会のテーマである。

**【浦壁委員】**

余りにも抽象的すぎて、個別の問題ばかりになって輪が広がり過ぎている。それで富田座長にお聞きするが、1月がこれで終わり。2月、3月、4月に小川副座長と2人できちんと間違いなくできるのか。

**【富田座長】**

7月をタイムリミットにしている。

**【浦壁委員】**

7月とすると、このようなざっくばらんな意見交換的なものが、まだずっと続いてその中から小川副座長と座長と一緒にまとめられるものと理解する。

まだ、大分時間があるからといっても、このようなとりとめのない話に終始していることに私はすごく焦りを感じる。的がどンドンずれている。それは皆さんがいろいろな意見を持っていて、それを出されるのは構わない。大変失礼だが、ちょっと時間的に無駄かなと思ったりする。私のこの言うこと自体も的外れかなと思っている。あと、ある程度の目途を教えてもらいたい。何月までにこうやって、大体この方向で進めて行くとか。

**【富田座長】**

この後、明日にでも小川副座長と話をする。今日聞いた打田さんの話では、若者が参加している。その中でまたいろいろ空き家を使って、利用する人がいると思う。そう考えると打田さんの町家の方に絞って、これを中心に行って、あと、安心ノートとかいろいろな情報を集めて、4月ぐらいに自主的審議事項として提案したいと思う。

自主的審議では、他の委員を入れて話し合うことになり、2か月くらいかかる。だ

から、4月、5月ぐらいには自主的審議事項として、6月にまとめていくことでやれると思う。

**【松倉委員】**

もう1回、これまでの話をまとめて、7月までのスケジュールを皆さんに出してもらえればよい。

**【富田座長】**

例えば、そういうことで始めたいと思う。

**【小川副座長】**

一応話をして、話がこうまとまっていく。市の方もそれなりに政策を考える。大町5丁目もそうで、我々の町内もそうだ。進んでいるところと、どこで連携がとれるのか、あるいはどのように地域協議会としてそれを応援するのか。あるいは、こういうところも足してくれと提案するのか、その辺を目指したらいい。

**【富田座長】**

それはこれからの地域協議会が目指す「協働の要」、協働ということで一緒にやるという、この要になっていく一つの良い題材だと思う。そういうことでやりたいと思う。

次回までに小川副座長と話をする。アクションプランを1月14日までに事務局に提出して、それで17日の地域協議会で分科会のアクションプランとして報告するので、それまでに案を作る。

以上のことを委員に諮り了承を得る。

村田委員はいろいろな自分の意見を言えばいいと思う。皆さんもどうのこうの思っていることを言い合えばいい。皆さんの信頼関係がないとこういう活動がうまくいかないと思う。そして皆さんが意見を聞くことも大事だと思う。それで案が出てくる。それを又聞いて進めていきたい。

閉会を宣言。

**9 問合せ先**

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 025-522-8831 (直通)

E-mail:nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。